TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

真実のベル　滅亡に対する欲

ガラテヤの信徒への手紙 5：13-18

2023 年 7 月 1 日&2 日
ジェシー　セザリオ　牧師

ガラテヤの信徒への手紙 5:13-18「[13] きょうだいたち、あなたがたは自由へと召されたのです。ただ、この自由を、肉を満足させる機会とせず、愛をもって互いに仕えなさい。[14] なぜなら律法全体が、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句において全うされているからです。[15] 互いにかみ合ったり、食い合ったりして、互いに滅ぼされないように気をつけなさい。[16] 私は言います。霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。[17] 肉の望むことは霊に反し、霊の望むことは肉に反するからです。この二つは互いに対立し、そのため、あなたがたは自分のしたいと思うことができないのです。[18] 霊に導かれているなら、あなたがたは律法の下にはいません。」

祈りましょう。

私の経験

80 年代の多くの映画では 10 代の若者が大学に行くシーンが描かれていました。車に荷物を詰め込んで、家族と友人たちは幸運を祈りながら手を振って送り出し、彼らは誇らしげに走り去っていきます。そして、みんな天下を取りたいというような歌詞の音楽が流れます。

私が大学に行った時は少し違いました。その日、両親が大学に来て、親切に寮への引っ越しを手伝ってくれました。私のルームメイトもいて、これからの新しい生活にかなり興奮していました。引っ越しが終わると、両親はドアに向かって歩き始めました。そして私は彼らについていきました。

廊下の外には駐車場に通じる階段があり、両親は階段を上がっていきました。そして、その瞬間、私は立ち止まりました。まるでそこにバリアがあって、両親だけが進み続けたかのように感じました。夢のようでした。私はただそこに立って、二人が上がって去っていくのを見ていました。二人は振り返って別れを告げました。その瞬間、自分が自由であることに気づきました。両親のルールや権威から切り離され、この時点からやりたいことを何でもできると気づきました。

それは奇妙な解放感でした。何故なら高校の最後の年には、両親は私に大したルールは課していなかったからです。一つは夜中までに帰宅することと、もう一つは時間通りに学校に行くことでした。

大学の最初の学期では、私は手綱を取って、自由を限界まで試しました。よく夜更かしをして朝起きられなかったため、翌朝の授業を欠席していました。それによって、成績も人間関係も、そして健康も害されました。

父は私の成績を見ても、目に見えて怒ったり、罰したりしませんでした。彼はもうすることは出来ませんでした。私がすでに自由になっていたからです。しかし、彼はまだ私の父だったので、私に「ベストを尽くしての結果か？」と尋ねました。私はそうではないことを知っていました。苦労して学ぶことになり、授業を再受講して、卒業が先延ばしになりました。

今となっては問題ないです。もう過去のことです。しかし、主がその経験を数年後に私が救われる時に用いてくれました。しかし、30 年前の自分の行動の結果は、ほんの少しではありますが、今でも人生を影響しています。

そして、普通に考えてみると、高校時代のルールを守ってさえいれば、夜中までに帰宅して時間通りに学校に行くことさえしていれば、問題は何も起こらなかったでしょう。それを考えていれば、ですね。そのルールは常識です。ただ立ち止まって、起き上がって、歩くことです。

序章

今日のメッセージのタイトルは「滅亡に対する欲」です。クリスチャンの共食い、の考えです。これは、パウロが「互いにかみ合ったり、食い合ったりして、互いに滅ぼされないように気をつけなさい」という箇所からだけではなく、反律法主義とリベラルな考えは教会を破壊するという考えでもあります。お互いを食い合ったりすることで自分自身を滅ぼすことになります。

「[13] きょうだいたち、あなたがたは自由へと召されたのです。…」パウロは信者に、彼らは自由に召されていると言います。召されるということは、誰かを呼んで招待することです。あなたが電話を受けて、相手方が「こんにちは、今回の指名は、もし受け入れるなら、キリスト・イエスにあって自由に生きることです」と言われるかのようなことです。少しミッション・インポッシブル、不可能なことに聞こえますね。自由に生き、罪によって滅ぼされないことは。しかし神とともにいるなら、すべてのことが可能です。神となら、あなたはこれまでもこれからも聖化されており、神はあなたを支えます。

使徒言行録 20:32「…あなたがた…聖なる者とされたすべての人々…」

使徒言行録 26:18「…私への信仰によって…聖なる者とされた人々…」

ローマの信徒への手紙 15:16「…異邦人が、聖霊によって聖なるものとされた…」

コリントの信徒への手紙一 1:2「…神の教会と、キリスト・イエスにあって聖なる者とされた人々…」

ヘブライ人への手紙 10:10「…私たちは聖なる者とされたのです。」

ユダの手紙 1 節「…父なる神にあって愛され、イエス・キリストに守られている、召された人たちへ。」

コリントの信徒への手紙一 6:11-12「…主イエス・キリストの名と私たちの神の霊によって洗われ、聖なる者とされ、義とされたのです。私には、すべてのことが許されています。…」

自由の中で自由に生きることが何を意味するのかについて多くの議論があります。自由な身でありながら、何でも自由にやることではないと言う人がいるでしょう。言い換えれば、私たちは罪の束縛から自由にされていますが、律法の外で生きる自由はありません。または、私たちは祭儀律法からのみ自由であるという人がいるかもしれません。

自由の範囲が、祭儀律法以外であるのなら、パウロは肉について話す理由がないでしょう。祭儀律法を破りたいという肉の思いを持っている人はどのくらいいるでしょうか？朝食にベーコンを食べる以外に？今、割礼を受けたいという強い衝動を感じている人は何人いますか？誰もいないと思います。

信者に与えられた自由は、あなたが何をするかによっても、あなたがしないことによっても維持されるものではありません。神からの賜物です！

…ただ、この自由を、肉を満足させる機会とせず、…

パウロは、自由は肉の欲望を育ませることができると強調しています。そして、彼は肉の欲望を 19 節以下で説明しています。

「[19]…淫行、汚れ、放蕩、[20] 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、嫉妬、怒り、利己心、分裂、分派、[21] 妬み、泥酔、馬鹿騒ぎ、その他このたぐいのものです。…」

気ままなセックスをしたり、ポルノのような卑猥なことに夢中になったり、ドラッグをして錯乱状態になったり、喧嘩したり、怒りと暴言を吐いたり、不和を生んだり、本質的でない事柄についてフェローシッ

プを破壊したり、異端や宗教的なことを強制したりすることが挙げられます。他人の地位、収入、または神から与えられている祝福に嫉妬したりするようなこと、その方向にあるものなら何でも肉の欲望です。パウロは、あなたはこれらのことをする可能性があり、クリスチャンとしてこれらのことをしているかもしれないと言っています。

ですから、13節ではパウロはシンプルな適応をくれます。**「…愛をもって互いに仕えなさい。」**

これは単に他人に対して愛の感情を持つ以上のものであることに注意してください。他人に仕えることと言っています。

私たち家族が寝る準備をしているとき、よくあることなのですが、娘はまだ宿題が残っていると言ってきます。大体は算数です。彼女は恐らく手伝ってほしいからそうしているのでしょう。妻の安奈がその他の宿題を手伝っていますが、算数は私が手伝えるものです。
そして、それはもちろん遅い時間なので、娘は「パパ、教科書からノートに問題を写してくれる？そしたら、私は答えを書くから。」と聞いてきます。

私はノーと言って、彼女がそれを書く方が良いと言います。しかし、彼女は「じゃ、問題の番号、プラス記号、行だけ書くならどう？」とさらに聞きます。

私の最初の反応は「ノー、自分で書くのはそんなに難しくないでしょう」と言うことですが、彼女はおそらく疲れて苦労していることを私は知っています。その部分は、算数の問題自体ではないし。そして、私は彼女が苦労していること、疲れていることを理解して、それでも宿題をしたいという彼女の思いに感謝する必要があります。だから彼女を手伝います。

また、「誰誰さんのメールアドレスは何ですか？」と質問されることもよくあります。肉の心では、「自分で調べることできるよね。簡単だよね。携帯をみたら5秒で分かることだよ。」と思ってしまいます。

しかし、自分に問いかけなければならないのは、「その態度はパウロが話しているような、互いに仕え合う態度ですか？ベストを尽くしていますか？」ということです。答えは「いいえ、そうじゃない」です。

そして、もし歩き始めたいのなら、歩くことの始まりが止まるところから走り始めるまでの出発点だと理解しているなら、私たちはもっとシンプルな方法でお互いに仕え始める必要があります。

あなたが簡単だと思うことは、他の人にとっては難しいことかもしれないということを忘れないでください。さっき、不満を考えていた時に、それは自分にとって簡単なことだと認めていましたね？

パウロは、その教えは明確にも究極的にも聖書的であること―旧約聖書と新約聖書の両方に教えられていること―を思い出すように呼び掛けていますので、それを回避することはできません!

「[14] なぜなら律法全体が、『隣人を自分のように愛しなさい』という一句において全うされているからです。」

ここまでは、パウロは私たちが信仰を通して恵みによって生きており、律法の下にいないと言っていました。しかし、パウロは同時に、互いに愛し合うことは律法を全うするという真理を教えています。

質問:なぜ私たちは法律に従う必要がないのに、それを全うするべきなのでしょうか？

パウロ、どういうこと？

パウロが次の節で答えを出してくれていることに感謝します。解釈も何も必要ありません。何故ならパウロは聖霊の力で、説明してくれたからです。

「[15] 互いにかみ合ったり、食い合ったりして、互いに滅ぼされないように気をつけなさい。」

明確です。律法を可能な限り全うするべき理由は、律法を全うしないと悪い結果をもたらすからです。はい、他人の配偶者をとったり、結婚前にセックスをしたり、嫉妬や怒りでいっぱいになったり、ドラッグをしたり、お酒に酔ったり、ゴシップをしたり、誹謗中傷したりすると、悪い結果をもたらします。他人の人生と家族、そしてあなたの人生もぐちゃぐちゃにします。クリスチャンの生活が異端者の生活となり、異端であるため、世界にとって証人でなくなります。つまり、この世界であなたに悪い結果をもたらすだけではなく、霊的にもこの世の人生をはじめ、永遠に続く悪い結果をもたらします。

これは明らかではありませんか？

しかしパウロは、あなたは救いを失います、とは言っていないことに注意してください。パウロは、本当に救われている人々にそれは起こり得ないことを知っています。

彼の忠告は、クリスチャンがお互いを共食いしないように、です。彼らはお互い食い合っています。それは何故でしょうか？

皮肉なことです。

この聖書箇所によると、その分裂はまさに今日のテーマのことで起きていると言っています。キリストにあって持っている自由は何なのか、というテーマで、とても分裂を生むものです。

ガラテヤ人は混乱しています。彼らは、純潔とは、何かしなければならないものだと考えています。一方でパウロは、誰でもキリストにあるなら、その人は新しく造られた者だと知っています。古いものは過ぎ去り、十字架の上で起きたイエス・キリストの血と犠牲によって聖化されています。

そしてどういうわけか、自分たちが十分に聖くなく、イエスの血のみでは本当に聖化されていないと感じています。自分たちが罪悪感を持っているものは、他人に対しても批判的になるものです。

あなたが法律だと感じていることを他の人にも強制します―そしてそれをしない人に対して、あなたはパリサイ人のように「失格！」と言います。

だからこそ、パウロはイエス・キリストを信じる者は、いかなる理由でイエス・キリストから離れることはできないことを明確にしています。

他人に対して批判的になると、彼らに仕えるという気持ちが完全になくなります。

他人に仕えたくないとき、私たちは同情、他人の気持ちを考えること以上が必要です。そして、共感以上に、何ができるかを知るだけではなく、本当に実践するための思いやりが必要です。

キリストご自身は、神の御心を知り、神の御心に従うことから物事を行っただけでなく、あなたを愛してくださったため、十字架に行きました。私たちがまだ罪人であった時に、批判することなく、十字架に行きました。イエスは神です！そうする必要はありませんでした。

イエスは十字架に行く前に**ヨハネによる福音書 15:12-13** でこう言います:**「[12] 私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これが私の戒めである。[13] 友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」**

ヨハネの手紙一 3:23 でも同じです:「神の御子イエス・キリストの名を信じ、この方が私たちに命じられたように、互いに愛し合うこと、これが神の戒めです。」

立ち止まって考えてみてください。ヨハネ自身の言葉で、パウロ自身の言葉で、そしてイエス自身も私たちに同じことを教えています。私たちが信者としてするべきことを教えています。人々を愛し、助けること。忍耐のない、頑固な人であることをやめてください！あなたの態度は一致を破壊し、あなたの周りのすべてを破壊させます！

あなたはベストを尽くしていますか？

私たちはストレスを感じたり、イライラしたり、動揺したりしない方法が分からないのは興味深いことではありませんか？私たちは何故こうなのでしょうか？他人と自分の滅亡に対する欲だからではないのでしょうか。

私たちは「うわー、この人やあの人と付き合う必要がなかったら、私の人生はもっと良くなるのに。その人から離れよう！」とか「なぜ神はこの人を私の人生で私の近くに置いたいのだろう？」と考えてしまいます。

しかし、私たちはいつどこで生まれるのか、両親が誰なのか、どんな能力を持っているのかを選択できないことを忘れています。神は私たちが苦手とする人が誰であり、何に苦労して、その人がいつ、誰から、そしてどこで生まれるかを選びました。私たちは本当に神の主権を信じていますか？

明らかではありませんか？神は、あなたが愛を通してその人に仕えるためにその人を人生に置きました。その人のためにもキリストは命を捨てました。

私たちはそのことをすぐ忘れます。
クリスチャンであってもなくても、誰もがこのようなことを祈ったことがあると思います。「主よ、なぜこんなに手のかかる人たちが周りにいるのですか？」「なぜ子供たちはこんなに大変なのか？」「なぜ私の上司はこんなに難しい人なのか？」「なぜこの人はこのように考えるのですか？」なぜ 78 億 8000 万人の人々が一日中このようなことを考えているのでしょうか。理由はこれです。神の計画だからです。

神は世界をとても愛しておられたからです。この世の罪人を！

どうすれば肉に打ち勝つことができるでしょうか。私たちを狂わせるような間違ったセックス、間違った動機、間違った生き方、他人に対する間違った感情を取り除くにはどうすればよいですか？私たちの人間関係と心の平和を破壊するそのような感情を？
「[16]私は言います。霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。」

歩むこと。。。天才です。

とてもシンプルで、とてもベーシックで、とても基本的なことです。誰でもできます。聖霊によるものなので、足も必要ありません。

聖霊の内に歩むことこそが適用です。私たちができる最も基本的なことです。それは神の性質を体現しながら歩むことを意味します。

御霊の実のリストは、あなたが本当のクリスチャンであることを証明するものではありません。

むしろ、御霊の実は、御霊を通して、内側から超自然的にできるようになるものです。

そして最初のステップは歩むことです。

心の中で愛を持って歩むこと、あなたがとる一歩一歩すべて、あなたの行動すべてを愛に影響させてください。

分かりますか？イエスは自分が飲まなければならない杯についてストレスを感じました。それでも、イエスはあなたを愛していたので、十字架に行って、父なる神への従順を全うしました。彼は決して「父よ、しかし彼らには資格がありません！」とは言いませんでした。彼は、それでもこの杯はあなたのために注がれていると言います。

すべて神を愛し、お互いを愛することの結果でした。

ですから、イエスが十字架を首にかけて歩かれたときのように愛をもって歩んでください。

周りの人が悩みの種であっても、イエスのように歩んでください。
「[17]肉の望むことは霊に反し、霊の望むことは肉に反するからです。この二つは互いに対立し、そのため、あなたがたは自分のしたいと思うことができないのです。」
17 節は少し不吉に聞こえますが、実際には私たちに偉大な真理を教えていると思います。私たちが肉体に住んでいる間に、わたしたちは皆もがきます。もがくことが普通です。何故なら、肉体と聖霊は対立しているからです。

ペテロはこのことを良く知っていました。ペトロの手紙一 2:11 ではこう言いました：「愛する人たち、あなたがたに勧めます。あなたがたはこの世では寄留者であり、滞在者なのですから、魂に戦いを挑む肉の欲を避けなさい。」

これは地上と霊的領域の両方に同時に住んでいるときに起きることです。しかし、ペテロは、私たちに地上ではなく、霊的な領域と自分の霊的なアイデンティティに焦点を当てるべきだと強調しています。

私たちはもうこの世界の一部ではなく、異なる形と文化の一部なのです。私たちは天国の文化を持っています。そして、その文化は聖霊に満ちた態度を持っている文化です。

ご存知のように、私は 2002 年頃から日本に住んでいます。そして、実家に帰って家族に会うといつも苦労します。彼らは何年も私に会っていないので、とても興奮します。そして、彼らが最初にすることはなんだと思いますか？私はハグしようとします！でも、私の体はどうなると思いますか？彼ら近づいてくると、私は目を合わせて、日本にいるかのようにお辞儀をし始めます。ほとんどの場合、ギクシャクしてしまいます。

ペテロはいいます。はい、この世界には独自の文化があり、あなたの霊的な文化はギクシャクしたり、衝突したりすることがあるかもしれない。ギクシャクしていても、あなたの本当の家の霊的文化を保つべきです。

パウロは次の節でこのことを思い出させてくれます。聖霊によって、この世界の文化とは異なる生き方をするのは問題ありません。たとえギクシャクしたり、他人にとって不快だったりしても、霊によって生きることに対する法律はありません。

「[18]霊に導かれているなら、あなたがたは律法の下にはいません。」

導かれることは、歩むこととは少し異なることに注意してください。

なぜでしょうか。

マタイ 14 章では、弟子たちは主が遠く離れているところから水の上を歩いてこっちに向かっているのを見ました。弟子たちは全員恐れて、それがイエスであることを疑っていました。

そしたら、イエスは「私だ。恐れることはない。」と言いました。

ペテロがどのようにして水の上を歩き始めたか覚えていますか？ボートから降りて歩き始めることさえできませんでした。彼は水の上を歩くことは不可能であることを知っていました。

ペテロはまだ何も確信していませんでしたが、キリストなら、水の上を歩くけるように彼を支えてくださることを知っていました。イエスだけがそうすることができました。

私たちは皆、このように感じているに違いありません。歩きたいけど歩けない！神が私たちを助けてくれないと思います。私たちを支えることをできないと思います。沈むことを恐れて、できないと恐れています。

私たちは御霊の実のリストを見て、自分自身の行動と地上での文化を見て、歩む能力がないと思ってしまいます。沈んじゃうよ、と思います！

ペテロはこのことを知っていました。イエスが言った通り、イエスが神であるなら、その不可能なことができると知っていました。

そこで、ペテロは大きな回避先を考えました。

イエスに言います、「主よ、あなたでしたら、私に命令して、水の上を歩いて御もとに行かせてください。」」

私にはできません、なので神様、あなたがそれを実現させてください！と

イエス・キリストは神であり、父、子、そして聖霊です。

ただイエスの名においてこれを祈ればいいのです。「聖霊様、あなたが歩んだように歩めるように命じてください！それは私には不可能です！」

信仰は神の臨在を認めます。

信仰はまた、神に叫ぶこと、不可能を可能にするように信仰によって求めることを意味します。何故なら 、聖霊が神だからです。

聖書はローマの信徒への手紙 8:26 でこう言います：「…弱い私たちを助けてくださいます。…」
神がそうしてくれると信じてください！それが信仰です！

結論
時々、イエスに従う者になった後、罪を犯すのをやめることができないと言う人の話を聞きます。だから、そのような誘惑や害のないものから守るようなルールと罰を作ります。

それが効果的ならいいです。しかし、それは行動主義的な方法で罪を止めさせようとすることです。でも提案させてください。キリストに似たものになると、罪も止めることができます。肉体的な規則と霊的な成熟もどちらも似ているような結果をもたらすことができます。しかし、どちらが継続するのでしょうか。どちらのほうが、反対されることがないと思いますか？どちらが本当の心の変化だと言えますか？

私たちは皆、霊的に成熟することを望まなければなりません。私たちは、霊的な成熟を妨げるような律法の上に自分を構築しないように気を付けないといけません。何故なら、人生の全ての部分において律法を持つことによって霊的な成熟は起きないからです。

私たちは罰を恐れて従順になるべきではありません。そうするすることはできません。何故なら、パウロははっきりと罪の結果である死は、すでにイエス・キリストにある人たちにとっては無効だからです。

あなたに対する神の望みは、神を愛することであり、互いに愛し合うことです。その望みが、神の本質と性質によって設定されたた最大の道徳的倫理の基礎です。

神は、私たちがどのような状況においても常に完全な愛を維持することができないことを知っています。私たちは失敗する自由を持っていますが、それでも愛するために努力する必要があります。神は、過ちを犯す自由が与えられるとき、愛のルールに従うことも実際には栄えると知っています。

イエスは救うためにいます、それが私たちの神と救い主です。

ヨハネの手紙一 3:16
「御子は私たちのために命を捨ててくださいました。それによって、私たちは愛を知りました。だから、私たちもきょうだいのために命を捨てるべきです。」
ですから、イエスのように歩んでください。私たちの神であり救い主のように。

まだ決断していないのであれば、イエスをあなたの主であり救い主にして、霊的な王国の一員となり、イエスと歩むにつれ、愛があなたの新しい文化になるようにしてください。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

※6 月 17･18 日のメッセージ訳に誤訳がありましたので訂正いたします。

訂正前:困っているクリスチャンを愛し大切に思うことを知らない、彼らはイエスを愛し大切に思っていました。

訂正後:困っているクリスチャンの兄弟や姉妹をケアし愛することが、イエスを思いやり、愛することになるということを、知りませんでした。

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール:cc@tokyobaptist.org
もしくは:https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg2723jp

★クラス 402
キリストの伝え方
7 月 15 日（土）13:30～17:30
参加条件: クラス 101 を修了した方

★クラス 101
教会員（TBC メンバー）になるためのクラス
9 月 9 日（土）13:30～17:30
参加条件: どなたでも
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu